

史学委員会（第26期・第4回）議事要旨

日時：令和6年10月21日（月）11時50分～12時50分

会場：日本学術会議6-B会議室およびオンラインの併用

出席者：大橋幸泰、小田中直樹、芳賀満、松本直子、吉澤誠一郎

（以上5名、このうち松本会員はオンライン参加）

議事概要：

（1）各分科会の開催状況とその課題

各分科会の開催状況やその活動の進展について確認した。そのなかで、シンポジウムや国際学会の開催の予定があることも紹介された。各部会からの意思の表出については、第26期で求められている日程のなかで、どのように対応していくべきかについて議論した。また、自然災害があいつぐなかで、文化財や歴史的記録が地域の復興に対して有する意義がますます大きくなっている現状についても、意見を交換した。

（2）日本学術会議アーカイブズの保全と公開に向けての進め方

日本学術会議アーカイブズの保存状態の現状や、これまでの経緯について、大橋委員長（アーカイブズと社会に関する分科会委員長）から説明があり、この史料の保全・活用の重要性について確認した。本件については、大橋委員長が第一部会でも発言することとした。

（3）その他

研究成果を速やかにウェブ上に公開すべきとするオープン・アクセスの動向をめぐって議論した。これまで学術において大きな役割を果たしてきた出版・雑誌の文化が、オープン・アクセスの進展からどのような影響を受けていくのかについて、一定の懸念があり、今後も留意していくこととした。

以上